

メディカル メガバンク通信

MEDICAL MEGABANK NEWSLETTER 2013 2

Interview



メガバンク大学院コース
外科医 伊藤 千絵

1978年生まれ。岩手県釜石市出身。外科医。秋田大学医学部を卒業後、岩手県立中央病院、県立釜石病院、岩手医大附属病院にて勤務の後、今年4月より県立宮古病院に勤務。

Q 伊藤先生、今日は診療でお忙しい中、お時間を割いてくださりありがとうございます。まず、先生の経歴について少し教えてください。

医者になって8年目になります。平成一八年から4年間、県立中央病院で勤務し、その後釜石病院に2年間勤務しました。釜石病院で働いている間に岩手医科大学外科医局に入局し、昨年は大学病院で勤務、今年4月からは宮古病院に勤務しています。

Q ご経歴を伺うと、震災の時は、釜石病院にご勤務されていたんですね。

はい。釜石病院の手術室にいました。ちょうど手術が終わり、患者さんを病棟に搬送するところでした。

Q たくさん患者さんが院内にいたと思いますが、どのように対応したのですか？

まずは避難のために病棟にいる患者さんを病棟外に出すという作業でした。釜石病院は、当時耐震面に問題があると言われ、耐震工事をする予定だったこともあって、建物が崩れないうちに、とにかく患者さんを院外に無事に連れ出すということが最優先でした。

Q 被災当時のそういった経験も、この大学院コースに応募した理由になっていらっしゃるのでは？

まるで野戦病院のようでしたよ。患者さんを外に出したら、今度は安全な屋内に戻さなければならなかったですし、重症患者が搬送されてくると聞いていたので、その準備もありました。実際は、生きるか死ぬかで、生死をさまよう患者さんはいませんでした。病院に搬送されてきたのは、軽傷の患者さんが多かったですね。

Q 余震も続くなか、毎日寝る間もなく対応されていたのではないですか？

釜石病院での勤務を終えて盛岡に戻った後も、ニュースで釜石が映ると、いまだどうなっているかな、と気になっていました。このコースでは、2年間沿岸の基幹病院勤務があると聞き、もともと岩手の沿岸で働きたいと思っていたので、丁度いいと思い応募しました。普通の大学院だと、臨床をしながら夜中に研究をするのですが、メガバンクの大学院コースは臨床と研究が分かれていて、とても良いシステムだと思います。



「これからは大学院で学び、『医療のプロ』として、いまより上の知識や技術を身に付けたい」と話す伊藤先生。

Q 実際に被災地で医療を実践されて、気づいたことや感じたことを教えてください。

仮設住宅で慣れない生活をしている人も多いし、体調管理が出来ない人もいます。そういう人がたくさんいるので、心配ですね。釜石もそうでした。特にお酒におぼれたり、アルコール中毒になったり、自殺企図も多かったですからね。それに岩手県三陸沿岸はまだまだ医師不足で、震災前の医療体制に戻っていないところがたくさんあります。でも、それがあまり外に伝わっていないと思います。時と共に伝わらなくなってくるのかな、と思います。

Q このメガバンク事業は、被災地の医療復興を目指しています。宮古ではどのように医療を充実させていったらいいと思いますか？

まずは、この事業をたくさんの人に知ってもらうことだと思います。ドクターも患者さんも、なぜ被災地でやるのかという疑問をもった人もいます。あれだけ大きな自然災害が起こった後、人の身体にどのような影響を与えるのかを長い目で見る調査であるということ、それが未来の人々の健康に役立つ研究であるということを知ってもらいたいと思います。



いわて東北メディカル・メガバンク機構の ロゴマークが出来ました！

この「マーク」はメディカルとメガバンクのMをモチーフにしており、ハートの形をしたリボンは、被災地と医療が健康という絆で結ばれていることを表しています。ハートは心の通う医療を意味し、リボンは医療と人間、医療と地域、医療と未来を結ぶ象徴としてデザインしています。イメージカラーは「若草色」。この色は、「再生」「復活」を意味し、東日本大震災からの医療と被災地の復興の願いが込められています。



いわて東北メディカル・メガバンク機構



発行日
発行

2013年9月30日

岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構
〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1
電話 019-651-5110 (内線 5508/5509)
URL <http://iwate-megabank.org>

All rights reserved. 本書の収録内容の無断転載、複写、引用等を禁じます。

これからは

健康寿命

をのばす!!

「健康寿命」とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことをいいます。超高齢化社会を迎える日本、自分の身体と向き合い、健康的な生活を心がけることが健康寿命を延ばす第一歩です。ここでは、メガバンクの健康調査の内容について紹介します。

●岩手が抱える健康問題

岩手県では東日本大震災・大津波が発生する前から、脳卒中や心臓病にかかる人が多いことが知られていました。また脳卒中の死亡率が高い状態であることが以前から問題となっていました。さらに震災後1か月に脳卒中や心不全になる方が増えたり、気持ち落ち込んだり、眠れなくなったりする方がいまでも多く認められ、一年半たった今でも被災した方々への継続した健康管理体制が求められています。

脳卒中の死亡率（平成22年度）

	男性	女性
1位	岩手県	岩手県
2位	青森県	栃木県
3位	秋田県	青森県

出典：厚生労働省

久慈市民公開健康講演会

事業協力の呼びかけをしました
2013年7月24日（水）、久慈市アンバーホールにて開催された第二十七回市民公開健康講演会にて人見副機構長が事業の説明をし、協力を呼びかけました。講演会には市民の方々百数十名が参加し、県立久慈病院の先生方の講演と、市民を交えた活発な質疑応答が行われました。

保健推進員が来学しました

機構本部見学（岩手医大矢巾キャンパス）
2013年6月から8月にかけて、住田町と洋野町の保健推進員の皆さまが来学しました。
当日は地域住民コホート調査担当の丹野准教授や佐々木助教によるメガバンク事業や健康づくりについての講演が行われました。
また、最新設備が整った岩手医大矢巾キャンパス内の見学も実施しました。



▲住田町のみなさん



▲洋野町のみなさん

特定健診対象の方

※市町村が実施する集団健診を受診される20～74歳の方

<通常の健診項目>

- ・既往歴に関する問診
- ・身体計測（身長、体重、腹囲、BMI）
- ・血液検査
- ・自覚症状、他覚症状の検査
- ・血圧測定
- ・尿検査 等



メガバンクの健康調査でコレがわかる！

- アレルギー
- 栄養摂取状態
- 胃の病気のリスク
- 過去2週間の血糖の状態
- 心臓や腎臓の働き
- がん・脳卒中・心臓病になる確率

特定健診対象外の方

現在設置準備中の4つのサテライトにて受診できます。



皆さまに御協力をお願いする事

- 採血
- 採尿
- 調査票の記入



独自の追加調査でさらに詳しい健康状態がわかる！

- 眼の検査
- 呼吸機能検査
- 心電図
- 内臓脂肪検査
- 骨密度検査 等

あなたの健康状態がいつもより詳しくわかります！

日々の生活で
気をつけるべきことが
わかります！

これらの検査は、
すべて無料です。
※特定健診自己負担分を除く

●対象市町村



メガバンクの健康調査を受けて
健康な生活を送りましょう！

●調査対象者

二十歳以上で対象市町村に
住民登録がある方。

岩手県沿岸部（久慈市、洋野町、野田村、普代村、宮古市、岩泉町、田代町、山田町、釜石市、大槌町、大船渡市、陸前高田市）
一部内陸 矢巾町、住田町、一関市、遠野市、二戸市、一戸町、軽米町、九戸村）※変更・追加の可能性あり

●調査票について

調査票は健康と生活習慣に関するもの、食事に関するもの、ストレスに関するものの3冊です。ぜひ御協力をお願いします。

●解析について

次世代型医療の開発のため、ご提供いただいた生体試料を用い、ゲノム情報を含む遺伝子解析を行います。未来の世代のために、皆さまのご理解をお願いします。

地域住民健康調査スタート

岩手県・野田村を皮切りに
2013年9月2日（月）、岩手県野田村を皮切りに地域住民健康調査を開始しました。
野田村にて行われた特定健康調査の会場に当機構のスタッフが伺い、健診を受診される方々へ調査のご協力をお願いしました。
調査にご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。



▲9/2 野田村での健診



▲9/8 普代村での健診

事業および人材募集説明会実施

県内4地区で開催
2013年9月13日（金）、14日（土）矢巾町・久慈市・宮古市・大船渡市にて、事業および人材募集説明会が実施されました。
ご来場くださった皆さま、誠にありがとうございました。



メガバンク事業を支えるスタッフ vol.2

GMRC（ゲノム・メディカル・リサーチ・コーディネーター）

GMRCは遺伝子やゲノム解析研究についての知識をもった専門職であり、ゲノム研究を支援するスタッフです。ゲノム医学研究の成果を上げるには、多くの皆さまの参加が不可欠ですが、GMRCは研究協力者である皆さまと研究者との間の橋渡しの役割を担っています。当機構の認定GMRCは主に医療系資格保有者です。メガバンク事業について適切且つ丁寧に説明。皆さまの生活に寄り添い、日々の健康づくりのサポートをします。ご不明な点は、お気軽にGMRCにお尋ねください。

GMRC 講習担当教員

イノベーション推進・人材育成部門
副部門長 福島 明宗 教授



本プロジェクトの研究成果は皆様自身の健康管理に役立つのはもとより、次世代医療の発展には欠くことのできない貴重な医療財産となるものです。そのためには、皆さま一人ひとりのご協力が不可欠です。人材育成部門では、皆様の疑問や質問になんでもお答えできる研究スタッフの養成を目指します。



▲大船渡GMRCの皆さん。
（前列左から2番目が今野さん）

震災後、私たちは国内外からたくさんのご支援をいただきました。その恩返しの気持ちで臨んでいます。私も自分の健康のためにこの健診を受けます。大船渡の皆さんも是非健診を受け、私たちと一緒に心身の健康と向き合ってくださいと思います。

大船渡 GMRC 今野 隆子



▲GMRC講習会の様子。
実際の健診会場さながらの教室でロールプレイも行われます。
（中央が川口さん）

私たちGMRCは、市町村の協力をいただいて、岩手県沿岸部を中心に健康調査にお伺いしています。

対象地区にお住まいの皆さまには、ご自身の健康を第一に考え、ぜひ健診会場に足を運んでいただきたいと思います。

矢巾 GMRC 川口 一樹